



あっちの話

「あっちの話こっちの話」は、全国をまわる農文協職員が村々におじゃましました時に、農家の皆さんから教わった知恵の数々。今月は、長野県をまわった今年の新入職員が集めた話の特集です。

長野から

傾斜地の畑は緑肥で抑草&フカフカに

櫻井 歓太郎

上野真司さんは自宅裏の傾斜地でカキを栽培しています。15年前、Iターンで飯田市に移り住んだ頃の畑は、赤土でガチガチ。スコップがなかなか土に入らないくらい硬かったそうです。また、まっすぐ立てな

発芽するようになりました。効果もバッチリで4〜7月まで雑草を抑えてくれるうえに、ヘアリーベッチが根を張ることで土が徐々に軟らかくなりました。8月に枯れたあとは土壌の肥やしになり、肥料が流れなくなっ

いほど斜面が急なところもあるため、肥料は流れてしまいうし、草刈りするのも大変でした。

そこで上野さんはカキ畑でヘアリーベッチを栽培。当初は毎年タネを播いていましたが、5年ほど経つとこぼれタネだけで十分な量



たので、追肥の効きもよくなっただと感じています。

土を見せてもらうと適度に湿っていて軟らかく、ガチガチだった面影はまったくなし。

上野さんは傾斜地にあるトウモロコシ畑にもヘアリーベッチやソルゴーを播くなど、緑肥をフル活用しています。



長野から

田んぼのアゼをミントで覆ってカメムシ防除

阿部真弓

飯田市の矢澤さん夫婦は名コンビ。昌彦さんが有機栽培で育てた完熟コシヒカリで、幸子さんはもっちり米粉パンをつくり販売しています。

昌彦さんは田んぼのカメムシ除けにミントを



使っています。もともとは庭のカキの樹の周りに、ブラックミントとアップルミントを植えていました。幸子さんの料理に使えうえに、カキに害虫がつきにくくなると感じていたからです。25年ほど前、ミントがアゼの虫除けにも使えるのではと考えた昌彦さんは、4枚ある田んぼのアゼすべてにおよそ50cmおきに移植してみました。するとミントを植えた年から、においを嫌ってカメムシの被害が明らかに減ったそうです。

それ以来、昌彦さんはミントがなるべく多く残るように、5cmほどの高さで草を刈るようになりました。一度移植したきり、補植はしていません。ブラックミントは雑草に負けてしまいました。アップルミントは繁殖力が強く、よく育つのでアゼ全体を覆っています。



あっちの話

長野から

ネズミが退散するミントの歯磨き粉

堀籠勇希

東御市の直売農家・清水やよいさんは、保管している野菜やリンゴがネズミに食べられてしまうことに悩んでいました。そこでミントの歯磨き粉と新聞紙を使ってネズミを追い払っています。

やり方は簡単。新聞紙1枚の長辺を上にして台に置き、上半分に歯磨き粉を1往復分出したら、手前から半分に折るのです。あとはそれを野菜やリンゴを保管している物置の入口や隙間といった、ネズミが侵入しそうな場所の地面に置いておきます。するとネズミはミントのニオイを嫌がって来なくなるそうです。

以前はミントの葉をネットに入れて置いていましたが、すぐにニオイがなくなるため使うのをやめました。歯磨き粉なら新聞紙で包めば3カ月ほど効果が続きますし、手軽に買えます。

効果は短くなりますが、人の出入りが激しい作業小屋では、邪魔にならないように、歯磨き粉を直接トビラやブロック塀に塗っても効果があるそうです。





長野から

ナシのせん定枝がキュウリの支柱にピッタリ

西ノ坊夏生

飯田市の棚田勝久さんは、ハウスで栽培しているキュウリの支柱にナシのせん定枝を使っています。

株の両脇にはかん水パイプが入っている関係で、誘引ネットを張るアーチパイプは株元から少し離れたところに挿している棚田さん。定植後、つるがネットに届くまでは、キュウリに支柱が必要です。

そこで棚田さんは春にナシのせん定をするとき、40 cm 以上の徒長枝をとっておくようになりました。5月上旬のキュウリの定植のときにこの徒長枝を苗の横に挿して支柱代わりにするのです。徒長枝はまっすぐなので使いやすく、2反のナシから800本ほどとれるそうです。

徒長枝はキュウリの収穫が終わったら、つると一緒に燃やしています。棚田さんはもう12年

ほど前から、せん定枝を有効活用して支柱代を浮かせています。





あっちの話

長野から

小さいゴマも、七味のビンで簡単タネ播き

藤川直人

下条村の農業委員である福澤利尚さんは、遊休地を利用したゴマ栽培に取り組んでいます。

タネ播きをラクにするために使っているのが七味のビン。内ブタを外してゴマのタネを入れたら再び内ブタを閉めます。そこにハウスのビ



ニールを被せてゴムで留め、爪楊枝でビニールに穴を開けます。そのときに、隅に穴を開けるのがコツです。内ブタにもともとある穴の上に開けると、タネが勢いよく出すぎてしまうのです。ゴマのタネは小さいので手で播くと多めに落としてしまいがち。でもこの方法なら、ビンを振れば簡単に2〜3粒ずつ播けます。中が透けて見えるので、タネの残量がわかりやすいところも気に入っています。

実際にタネを播くのは6月上旬。レタス用の2条千鳥植えの穴あきマルチを敷いておき、発芽しやすいように雨の翌日をねらいます。

ゴマは連作障害が出にくく、病気や虫にも強いので農薬がいらず栽培しやすいそうです。希望者にはタネを無料で配り、少しでも遊休地が解消されることを目指しています。